

『星陰りて、謀り響く』
PC1 用ハンドアウト

陰謀論者のマードーミステリー

コードネーム: シンフォニー

ネタバレ防止用ページ

どくはく
独白。

私は知っている。この世界の隙間^{すきま}には、おぞましい陰謀論^{いんぼうろん}がはびこっていることを――陰謀論の根源^{こんげん}『夏音^{かのん}』から、国を守らねばならないことを。

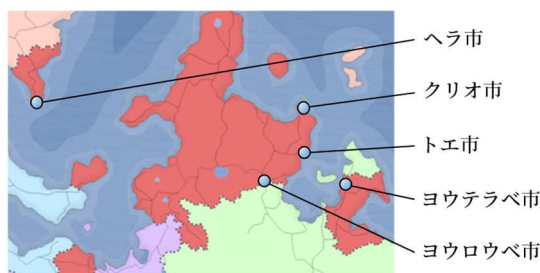
私が犯人だ。私が夏音のリーダー『フーガ』を殺した。

キャラクター設定

本名	自由
コードネーム	シンフォニー Symphony
年齢	自由 (25～40 歳)
性別	自由
一人称	自由
容姿	自由
誕生日	4 月 22 日 (おうし座)
血液型	A 型 Rh(+)
出身地	X 国本国 東部の街「トエ」市
職業	スパイ(警察所属)。夏音専属で働いているわけではなく、夏音と偽の職業(自由)と兼任している。
性格	悪を憎み、国を愛す。
その他の設定	夏音に潜入後、スパイの才能に目覚めた。

夏音以前の記録

シンフォニーは^{カイこく}χ国東部の街、トエ市で生まれ、トエ市で育ちました。シンフォニーは故郷^{ふるさと}を愛していました。同時に強い正義感を持って



いました。この街を守りたい。シンフォニーが警察官になったのも当然と言えるでしょう。といっても、かつて危険カルト集団のあった東飛び地や、冬族^{とうぞく}の多いヨウロウベ市などと違い、夏族^{かぞく}や秋族^{しゅうぞく}が多いトエ市は平和な街でした。交番で道を聞かれ、羽目を外した観光客を取り締まる日々でした。

暴力事件^{ぼうりきじ}に忙殺されるようになったのは、3年ほど前でしょうか？ **199年7月、国際的な経済不安**^{けいぎふあん}が、χ国をまるごと飲み込みました。貧困と格差が、国境・民族・難民問題と絡み合っ、トエ市に襲^{おそ}いかかりました。殺人事件こそ少ないものの、シンフォニーや同僚は治安^{ちやん}の悪化するトエ市に心を痛めていました。

かんの夏音。

その名前をはじめて聞いたのは、取調室^{とりしらべしつ}で怒り狂う一人の青年^{せいねん}の口からでした。「お前たちはバカか！ あのビルは国民を生贄^{いけにえ}にする装置なんだぞ！

夏音だよ！ 夏音って調べてみろよ！」

あのビル、とはクリオ市の超高層ビル「アルド」のことでしょう。この青年はアルドを爆破^{ばくは}する準備をしていました。爆薬類取締法違反で現行犯逮捕できたのは、シンフォニーの手柄でした。

アルドはクリオ市の歴史ある街並みをモチーフにした、赤煉瓦風の美しい建物です。「このあとアルドも見に行くんですよ」と教えてくれる観光客も数多くいましたし、シンフォニー自身、何度も足を運んでいました。

バカ？ 洗脳？ こっちのセリフだ。その時は深く考えませんでした。

しかし、シンフォニーはその後も「夏音」に悩^{なや}まされるようになります。どうやら、この夏音というのは陰謀論^{いんぼうろん}をばらまく、元締め^{もとじ}のような存在でした。トエはまだマシで、ほかの地方ではあの陰謀を信じた人間が過激なデモをしているようでした。

夏音。このカルト集団をつぶさなければ、故郷に、母国^{へいおん}に平穏^{おとず}は訪れない。

200年4月。シンフォニーはスパイとして、夏音に加入したのです。

夏音の潜入記録

潜入した、といっても、最初は変な講習会やオンラインの集まりに行っただけでした。

しかし、シンフォニーにはスパイの才能があったのでしょう。わずかな情報から夏音の動きを察知し、当局に報告しました。逆に、もらしても問題のない当局の情報を夏音に流すことで信頼をあつめ、同年の9月には夏音の情報部の部長にまで上りつめました。

潜入後一年ほどして、夏音は脱退したメンバーとの連絡を禁じるなどの対応をとりましたが、シンフォニーが疑われることは一度だってありませんでした。

愚か者どもが。

とはいえ、しばらくは大人しくしましたが。

こうして積み上げたスパイとしての自信は、半年後、ある事件をきっかけに崩れさりました。シンフォニーの全く気が付かないうちに、夏音が人を殺したのです。

201年12月2日。ヨウテラベ市郊外。

11月29日以来失踪していた若い図書館員の遺体が、無惨な状態で発見されました。司法解剖結果は他殺、死後数日は経っていたそうです。凶器は推定刃渡り15cmの鋭器。被害者の名前は……思い出せません。

「自殺」と報道されたのは、夏音が関わっているからでした。

夏音は、「政府はメディアを通じて洗脳コードを脳内に送り込んでいる」という陰謀論を流し、夏音のメンバーを報道から遮断していました。死体が発見される前日に。

夏音が図書館員を殺し、組織的に隠蔽しようとしているに違いありません。

夏音という腐った組織に対する義憤と憎悪が燃え上がりました。

シンフォニーには加害者の目星もついていました。

リーダーのフーガには無理でしょう。命令した立場かもしれませんが、死亡推定時刻とされる11月29日には、夏音本部のあるヘラ市内にいました。

もっとも怪しいのは、カプリッチオです。図書館員が失踪した日、カプリッチオは近くで目撃されています。

次に怪しいのは、ララバイです。ララバイはちょうどその時期、事件のあった東飛び地で任務がありました。人を殺しそうには見えませんが、外見で判断できないのはスパイの自分が一番よくわかっています。

キャロルも容疑者です。その時期、キャロルは休暇をとって、どこかへ行っていましたから。

シンフォニーとしては、全員逮捕^{たいほ}してもいいと思いました。しかし、肝心^{かんじん}のフーガにアリバイがあったからでしょうか。当局は潜入^{そっこう}続行を優先し、報道各社には自殺と伝えたのです。

その後、黙々^{もくもく}と潜入を続けたシンフォニー最大の成果^{せいこ}は、「ロンド」の正体を突き止めたことです。

仮面をつけているにせよ姿を見せるフーガとちがい、ロンドとは文字しか交わせません。フーガが非常に信頼していたこと、何かを研究していること、とても重要な何かを持っていること。最初はそれくらいしわかりませんでした。

しかし、あらゆる情報を総合した結果、「ロンド」は国立コウトスミ大学の民俗学教授で間違いありませんでした。

ロンドの情報を、洗いざらい当局に報告した2日後。

夏音から招集がかかりました。

「今日、ロンドが殺された。

^{ほうふく}報復として、11月30日、ウラミワ市のファロス灯台を爆破する。

今回の作戦には私、フーガも参加する。」

シンフォニーは、ウラミワ市のことを、よく知っていました。

ウラミワ市は経済推進都市ではありません。しかし、重要遺産のファロス灯台を中心に、観光でにぎわっている街でした。かつては、非常に平和な街でした。貧困と格差が、国境・民族問題^{から}と絡み合っ^てここ2,3年は治安が悪化していました。

ウラミワ市は、シンフォニーの生まれ故郷^{こきょう}、トエ市とよく似ていました。

「――夏音だよ！ 夏音って調べてみろよ！」

あの時の、爆弾^{ばくだん}テロ未遂^{みすい}の青年に感謝すべきでしょう。

シンフォニーは、夏音を調べたことで、国を守る『英雄』になれるのですから。

事件の記録

フーガという悪が滅んだ出来事を、殺人事件と呼ぶのは、どうなのでしょうね？ シンフォニーとしては、図書館員が殺された事件のほうが大切です。

しかし、ここは便宜上「事件」といえば、フーガが死んだことを指すこととしましょう。一応、フーガを殺したのはシンフォニーなわけですし。

隠れ家到着前

隠れ家に行く前に、「夏音がファロス灯台を爆破しようとしている。フーガも参加する」と当局に報告しました。

胸の内ポケットには、いつものようにサイレンサー付き拳銃を入れてあります。

ヘラ市にいましたが、一日かけてウラム市につきました。飛び地から本国へ行くのは大変です。

隠れ家到着～指令書受け取り

- 11/29 16:00 隠れ家に到着しました。フーガとカプリッチオは先に着いていました。
- 21:00～ 顔合わせと作戦会議を行いました。一時間ほどで終わりました。
- 22:15～23:17 バーに行きました。出るときリビング・ダイニングには全員残っていました。
タバコを勧めてくる人間がいます。断ろうと振り返ると、変装した当局の人間です。タバコの中には白い何かが見えます。礼を言い、カモフラージュのため、ライターと灰皿、タバコをひと箱買いました。
3 年ほど前から禁煙していますが、むかし吸っていた「トールス」という銘柄です。
- 23:17 隠れ家に戻ると、入れ違いでララバイとセレナーデが隠れ家を出るところでした。ファロス灯台へ爆弾を設置しに行くようです。お気をつけて、と声をかけました。リビング・ダイニングには誰もおらず、部屋に戻りました。
- 23:21 自分の部屋に戻ってタバコを解体すると、真っ白な紙が入っています。ライターであぶると文字が浮かび上がりました。
「報告のあった民俗学教授は逮捕した。フーガを暗殺しろ」
了解。サイレンサー付き拳銃を服の上から撫でました。

フーガ殺害～指令書焼却

- 11/30 「緊急の情報を手に入れた。」
- 00:45 そう伝えると、フーガはあっさり部屋の中に入れてくれました。
奥の書斎^{しよさい}まで入って、扉^{とびら}を閉めます。
拳銃を出します。
逃げようとしたフーガの後頭部^うを撃ちぬきます。
即死。
- 01:02 服を着替え、1 階へ降りると、リビング・ダイニングにカプリッチオがいました。むずかしい顔をしています。声をかけると、あわてて笑みをうかべました。そのあとは戦前のX国が如何に素晴らしかったかを話しましたが、カプリッチオはどこか^{うわ そら}上の空です。
- 01:30 **キャロルが外から帰ってきて**、2 階^{のぼ}へ上りました。気合の入った天体望遠鏡を担いでいます。「作戦に関係あるんですか」と問うと、カプリッチオが「趣味だそうだ」と答えました。んな、のんきな……。
- 01:40 **カプリッチオは 2 階へ**行きましたが、1 人でリビング・ダイニングに残りました。
- 01:47 **セレナーデが帰ってきました。**
シンフォニー「ララバイはどうしたのですか？」
セレナーデ「先に帰れといわれました。」
そんな会話をしながら、セレナーデが 2 階^{のぼ}へ上っていきました。
- 01:59 なんとということでしょう。指令書を処分し忘れていました。急いで二階の部屋に戻りました。吹き抜けとカプリッチオの部屋の間で、**カプリッチオとキャロル**が、窓の外を見ながら会話しています。
指令書を焼くと煙^{けむり}のにおいがしました。タバコに火をつけ、においを上書きしました。燃える途中の指令書を灰皿の上に乗せ、部屋を出ました。
- 02:00 タバコを吸いながら部屋から出るところを、カプリッチオとキャロルに見られました。
カプリッチオ「タバコを吸うのか」
シンフォニー「禁煙していたのですが……正直、緊張しています」
そのまま、リビング・ダイニングに戻りました。

指令書焼却～死体発見

- 02:30 カプリッチオが 1 階に降りてきました。カプチーノを淹れに来たようです。リビング・ダイニングで雑談を続けます。χ国を他国と比較して貶める言動が気になります。あまりχ国が好きではないのかもしれませんが。
- 02:36 ララバイの部屋前の収納から、セレナーデが出てきました。カプリッチオが「ちょっと話がしたい」と声をかけましたが、セレナーデは何も言わずに 2 階へ上りました。
- 02:42 ララバイが帰ってきました。酔っているのか、顔が赤らみ、^{ちどりあし}千鳥足です。頼りない足取りで 2 階へ上がりました。
- 02:50 夜も更け、部屋に戻りました。カプリッチオも同じようです。
- 03:00 隠れ家のどこかから、奇妙な歌が聞こえてきました。疲れた体に眠気が襲ってきます。何か忘れている気がします。抗えずに寝ました。
- 06:33 起きて、急いでリビング・ダイニングに集合しました。
- 06:55 カプリッチオがフーガを呼びに行き、死体を発見しました。

キャラクターのカード

以下の説明は、実際のカードの説明と異なる場合があります。矛盾する内容は書かれていませんが、情報の過不足や焦点の当て方が違います。

昨夜の記録 ???

何を書いてあるか、見当もつきません。誰も調べないことを祈りましょう。

持ち物 A タバコ用品

ライターや灰皿が新品だ、と指摘されたらイヤですね。あと何か忘れているような……。

誰も調べないことを祈りましょう。

持ち物 B サイレンサー付き拳銃

フーガを殺すために使いました。胸ポケットに入れています。これが見つかったらおしまいな気がします。一応言い訳だけは考えておきましょうか。

効果: エンディングにて使用可能。使用時は全体公開になっている必要がある。

切り札 指紋鑑定キット

指紋に関することが調べられます。

一目で「警察関係者しか持っていない物」とわかる以外のデメリットはありません。

効果: 全体公開の状態でゲーム中、2 回まで使用可能。閲覧できるカードが対象。ゲーム開始までに、そのアイテムに触れたキャラクターがわかる。

例えば、「指令書」を調べれば、「変装した当局の人間の指紋」と「シンフォニーの指紋」が出てくるだろう。

ゲーム開始後のカード調査の履歴は取れない。(誰が調べたか、誰に譲渡されたか、などはわからない)

プレイヤーの目標

プレイヤーの行動を制限するものではなく、ロールプレイの指針となるものです。
追加ハンドアウトにより、変更される場合があります。

BONUS は最終投票の後に時間がありますので、GM にこっそりと教えてください。

生存 する	4 点
ファロス灯台 が 爆破 されない	2 点
国 を守る	4 点
BONUS: 図書館員殺人の犯人 を当てる	2 点

また、「殺された図書館員の本名」をGMに伝えると、その時点で追加情報が手に入ります。
フルネームでおねがいします。

プレイヤーへのアドバイス

- ・犯人として拘束されると、エンディングで死にそうになっても回避が難しいでしょう。
- ・怪しまれ、カード調査が「持ち物 2」まで進んだ場合、サイレンサー付き拳銃が奪われてしまいます。生存率が下がります。
- ・要するに怪しく見られないように気を付けましょう。

シンフォニー視点の登場人物

PC1: シンフォニー

何をかくそう、自分自身のことです。夏音内部では情報部の部長をしています。ていねいな物腰を心がけています。

フーガを殺した件で変に怪しまれていないといいのですが。まあたしかに殺しましたけどさ。

PC2: セレナーデ

夏音幹部にまじって、唯一の新人ですが実行部隊に所属しており、爆発物に詳しいためラバイが呼んだようです。

図書館員殺人事件の後に加入したので、その事件には無関係でしょう。

夏音の中でも際立つ鋭い目つきを除けば、物腰の丁寧な好青年です。カプリッチオとはあまり仲良くないようですが。

PC3: ララバイ

実行部隊の隊長をしています。実行部隊といっても、その隊員が逮捕された話も聞きませんし、一体何をしているのでしょうか。

ヨウテラベ市のある東飛び地に行っていた時期が一致しているため、図書館員殺人事件の有力な容疑者です。

何度か会ったことはありますが、ひとの視線に^{おび}怯えるような小心者です。こんなんでも夏音は専属で雇っているとか。

PC4: キャロル

ロンドと研究をしていたようです。ロンドと同様、文面でしか知りませんでした。天体観測が趣味だとか。

普段はヘラ市にいますが、図書館員殺人事件のころに休暇をとって北西飛び地を離れていたようです。一応、容疑者です。

PC5: カプリッチオ

フーガの代理として組織運営をしていました。直接会うのは初めてです。

図書館員殺人事件の最有力容疑者です。事件当時、近くで目撃証言がありました。

重要 NPC: フーガ

夏音のリーダーです。共通ハンドアウトとおなじく、シンフォニーにとってもフーガは謎の多い人物です。夏音本部ににいるというより、夏音本部のあるヘラ市内、あるいは北西飛び地内を転々としています。連絡は簡単につきますが、直接会うのは難しいです。特に冬は。

姿を現したとしても、青白い仮面をつけています。そのため素顔を知ることにはできませんが、ちらりと見えた黒い瞳は狂気に満ちたものでした。

図書館員殺害の命令を下した立場かもしれませんが、実行犯ではありません。

古参のララバイ・キャロル・カプリッチオほどではないにしろ、フーガから信頼されていた自信があります。胸元から拳銃を取り出したときの、フーガのあわてっぷりは傑作^{けっさく}でした。

重要 NPC: ロンド／民俗学教授

直接会ったことはなく、文字でのやり取りを交わす程度でした。

フーガからの信頼があつこと、何かを研究していること、とても重要な何かを持っていること。この3点から、ロンドが重要人物であることをシンフォニーは見抜いていました。

細い糸をたどり、ロンドの正体が国立コウトスミ大学の民俗学教授であると突き止めました。集めた情報はまとめて当局に報告しました。

数日後、ロンドが殺された、と夏音から招集がかかりました。しかし、朝刊でも殺人事件のニュースは流れていませんし、当局からの指令書には「報告のあった民俗学教授は逮捕した」とあります。

フーガのウソかだと思うのですが、あの用心深いフーガが、ただの狂言で冬場に姿を見せるというのも変な話です。実際、フーガは殺されちゃいましたし。

重要 NPC: 若い図書館員

201年11月29日の晩に失踪しました。ちょうど一年前ですね。警察や家族、友人も必死にさがしたそうですが、12月2日、無惨にも遺体で発見されました。司法解剖の結果、11月29日に殺された、と推定されました。名前は……思い出せません。

自殺と報道されましたが、シンフォニーの夏音上層部による犯行、という報告を受けての判断です。遺体が発見される前日、夏音全体に「メディアを見るな」と命令したのは偶然とおもえません。容疑者はカプリッチオ、ララバイ、キャロルの3人です。

爆弾テロ未遂の青年: 夏音を知るきっかけになった青年です。今もブタ箱のはず。

変装した当局の人間: 事件前日、バーで接触し、タバコに偽装した指令書を渡されました。

知識・記憶

今までの話の補足です。ざっと目を通し、気になったら確認するといいいでしょう。

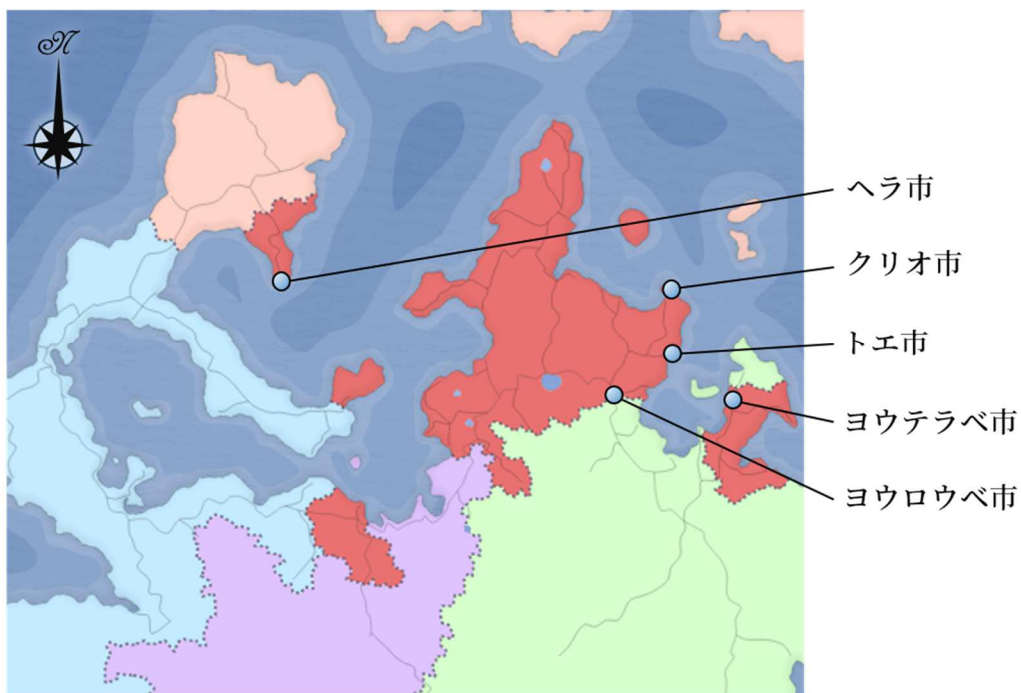
X国

かつては覇権国家でしたが、70 年前の敗戦で多くの領土を失いました。重要な都市の多くを周辺諸国に割譲しましたが、4 つの飛び地が残されました。中でも南西飛び地は、周囲の重要経済都市を失ったあとの「割譲の残りカス」と揶揄^{やゆ}されます。

周辺諸国は飛び地から本国や飛び地間の交通を制限することで、発展を食い止めようとしたようです。多くの都市を失ったX国は長期にわたる、低迷を続けました。

20~30 年前から発展しましたが、3 年前の経済不安以来、治安が多少悪化しています。殺人事件こそ珍しいですが、過激なデモや暴行事件は後を絶ちません。

戦後は廃止されましたが、X国にはかつて階級制度がありました。王族の春族^{しゅんぞく}、貴族の夏族^{かぞく}、平民の秋族^{しゅうぞく}そして、「被差別階級」の冬族^{とうぞく}の 4 つです。冬族の人間は犯罪率が高い、というのは警察官の、公然の秘密です。



ヘラ市

夏音の本部があります。北西飛び地の重要な港町で、経済推進都市なみに発展しています。民俗学教授のいた国立コウトスミ大学もあります。

クリオ市

経済推進都市です。制定当時はトエ市のほうが発展していましたが、今ではすっかり追い抜かれてしまいました。いわゆる「イギリス積み」の赤煉瓦がモチーフの超高層ビル「アルド」が建っています。ひとつだけ巨大な煉瓦には赤色の砂岩が使われており、観光客が化石探しに興じています。

トエ市

シンフォニーの生まれ故郷です。本国と東飛び地をつなぐ街として発展していました。というのも、飛び地は交通手段が制限されているのです。経済推進都市ほどではありませんが、観光客でにぎわっていました。

ヨウテラベ市

トエ市と近いようで遠い、東飛び地の主要都市・経済推進都市です。トエ市には、ヨウテラベ市からも多くの人が来ます。図書館員が殺された街です。

ヨウロウベ市

戦前はのどかな町でしたが、戦後、国境近くの都市として発展しました。国境・民族・難民問題が絶えない街です。

夏音

陰謀論をばらまいているカルト集団です。

- ・政府は宗教的儀式に国民を捧げようとしている
- ・メディアを通じて洗脳コードを脳内に送り込んでいる(代わりに夏音が発信するニュースを見ている)
- ・超高層ビルは宇宙人を呼ぶための装置

などが有名ですが、

- ・夏音を脱退したメンバーは洗脳された可能性が高く、接触するべきでない
- ・政府は宇宙人と交渉して、超科学的な兵器を所有している

といったバリエーションも存在します。いずれにせよ、科学的な根拠を見かけたことはありません。

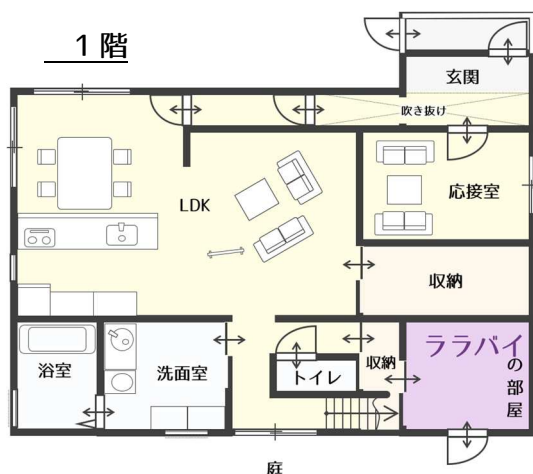
一方でテロ遂行能力を知り、背筋に冷たいものが走りました。ファロス灯台の警備の目をかいくぐって爆破するための、綿密で徹底的な計画が立てられています。

この集団を野放しにしておくわけにはいきません。

隠れ家

ウラムワ市にある夏音の隠れ家です。2 階建ての一軒家に見えますが、3 階建てです。

あなたは幹部なので、隠し扉の向こう側を知っています。

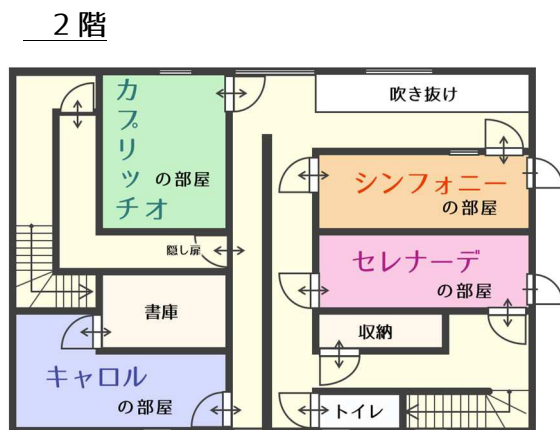


1 階にはララバイの部屋のほか、会議に使われるリビング・ダイニングがあります。

吹き抜けは道具なしに登れそうにはありません。

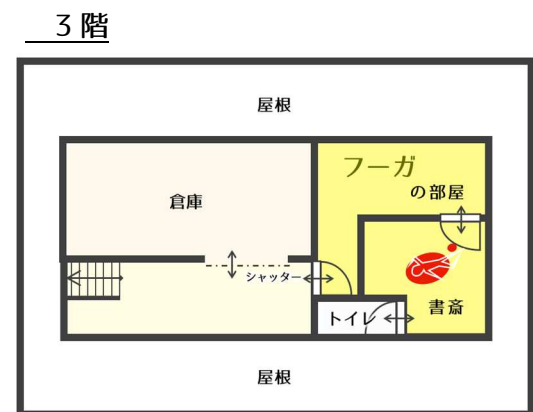
小さい方の収納は、出入りに不便なので空っぽです。

図には書かれていませんが、庭側に車庫もあります。



2 階にはシンフォニー・セレナーデ・キャロル・カプリッチオの部屋があります。

隠し扉は、シンフォニー・ララバイ・キャロル・カプリッチオの幹部しか知りません。しかし殺人事件の調査のために、セレナーデも立ち入りがゆるされました。



フーガの死体は 3 階のフーガの『書斎』で発見されました。(赤地に白の人型)

PC の部屋にはすべて鍵がかかります。外から開けるには、部屋の鍵を持っている必要があります。

A4 一枚でわかる時系列

1??/04/22	シンフォニーが生まれる。
199/07	経済不安により、治安悪化。
199/?~200/?	夏音を知る。
200/04	スパイとして夏音に加入。
/09	夏音の情報部長になる。
201/05	脱退したメンバーとの接触が禁止される。
11/29	図書館員が失踪。同日死亡したと推定される。
12/00	夏音が「メディアで洗脳されてしまう」と主張する。
12/02	図書館員の遺体が見つかる。自殺と報道される。
202 年 11 月 26 日	ロンドの正体が民俗学教授だと当局に通報。
29 日 16:00	隠れ家に到着。
22:15~	バーで指令書入手。タバコの「トーラス」を買う。
23:17	<u>ララバイ</u> ・ <u>セレナーデ</u> と入れちがいで帰る。
30 日 00:45	<u>フーガ</u> を殺害。
01:02~03:02	主にリビング・ダイニングで過ごす。
01:30	<u>キャロル</u> 帰宅。
01:47	<u>セレナーデ</u> 帰宅。
02:00~	指令書を処分しに部屋に戻る。
02:01	<u>カプリッチオ</u> と <u>キャロル</u> が二階に。
02:36	<u>ララバイ</u> の部屋から <u>セレナーデ</u> 。
02:42	<u>ララバイ</u> 帰宅。
02:50	帰室。
03:00	奇妙な歌。就寝。
06:55	<u>フーガ</u> の死体発見。ゲーム開始。